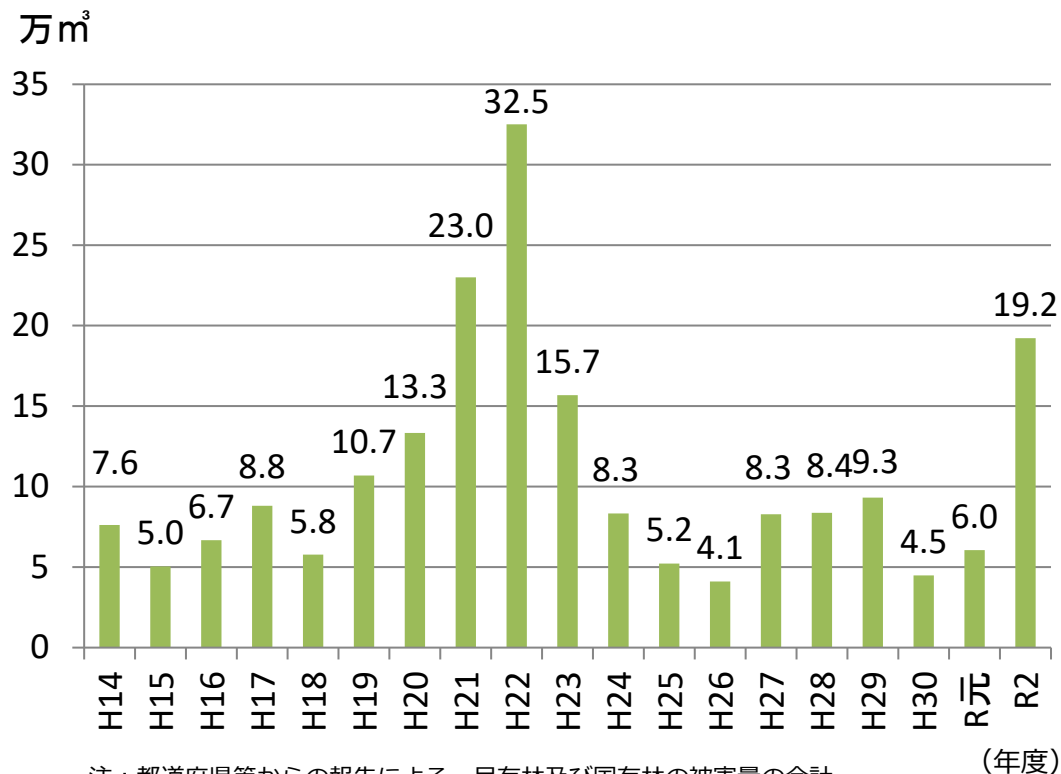


ナラ枯れ被害について

1 ナラ枯れ被害の現状

- 全国のナラ枯れ被害量は、平成22年度をピークに減少傾向にあったが、平成30年度を底に増加に転じ、令和2年度は前年比318%の19.2万 m^3 に増加。
- 令和2年度に被害が発生したのは42都府県であり、そのうち2県で初めて被害が確認され、その他の40都府県も全て前年度から被害量が増加。

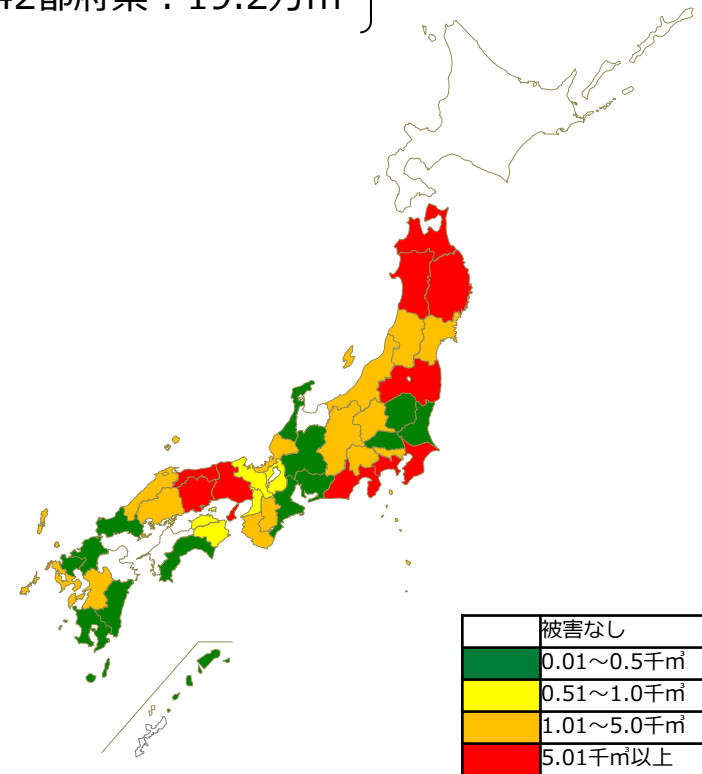
○全国のナラ枯れ被害量（被害材積）の推移



注：都道府県等からの報告による。民有林及び国有林の被害量の合計。
四捨五入により、都道府県別の被害量の合計と一致しない場合がある。

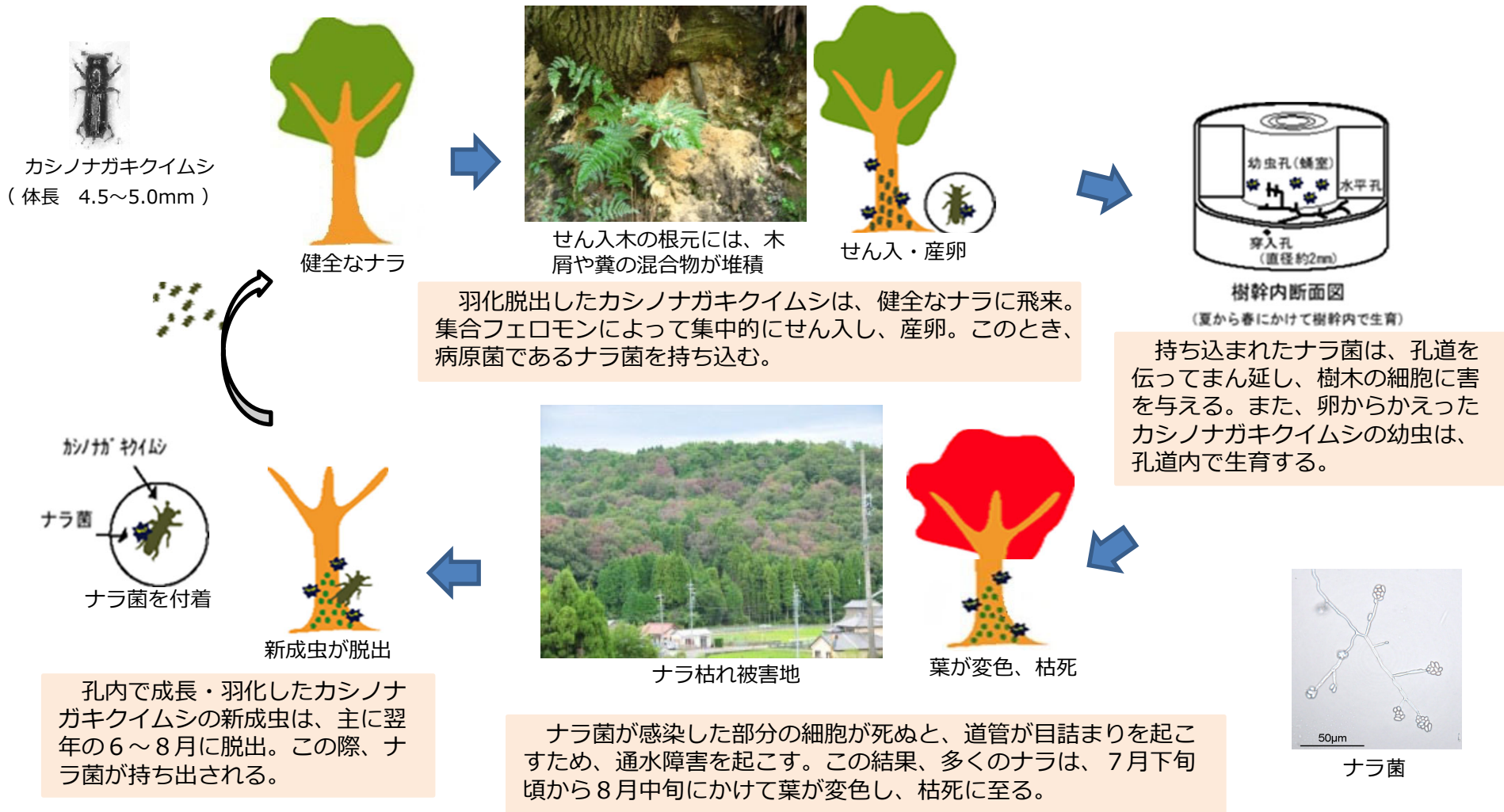
○都道府県別のナラ枯れ被害状況 (R2年度)

〔42都府県：19.2万 m^3 〕



2 ナラ枯れ被害の発生メカニズム

- カシノナガキクイムシがナラやシイ・カシの幹にせん入する際、ナラ菌が樹体内に持ち込まれてまん延することにより、樹木が通水障害を起こして枯死。
- 樹体内で成長・羽化した新成虫が体にナラ菌を付着し、別の健全なナラの個体に移動、せん入することで、被害が周囲に拡大。



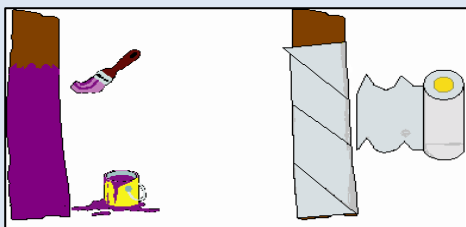
3 ナラ枯れ被害対策の概要

- ナラ枯れの防除に当たっては、特に守るべき樹木及びその周辺を中心に、被害木のくん蒸等による駆除、健全木への粘着剤の塗布やビニールシート被覆による侵入予防等を推進。

予防

○ 予防手法

- 健全木へのカシノナガキクイムシの侵入を防ぐため、粘着剤等の塗布またはビニールシートの被覆を実施（春）。
- 樹木を枯らすナラ菌や、餌となる酵母等を殺菌するため、殺菌剤の樹幹注入を実施（春～夏）。



粘着剤等を塗布

カシナガの付着を防止するためのビニール巻き



殺菌剤の樹幹注入

その他

- ナラ枯れ予防手法の実証、森林管理に係る地域協議会の開催等
- 天然林の質的・構造的な改善を目的とした整理伐等

駆除

○ 駆除手法

- 被害木内のカシノナガキクイムシを駆除するため、羽化脱出前に薬剤によるくん蒸または焼却、破碎を実施（秋～春）。
- カシノナガキクイムシの誘引捕殺を実施（春～夏）。



材に刻み入れ



シートで被覆密閉

〔くん蒸とは〕

被害木を伐倒、玉切りした後、薬剤が容易に材の内部に浸透するよう材の表面に刻みを入れ集積し、全体をシートで被覆密閉してくん蒸剤（カーバム剤）で処理し、材内のカシノナガキクイムシを殺虫する。